

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第6回 放射性廃棄物管理分科会 (F2SC) 議事録

1. 日時 平成13年3月15日 (木) 13:30~17:10

2. 場所 (社) 日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 森山 (主査), 小川 (副主査), 藤原 (幹事), 上田, 大江, 佐々木, 武部, 豊原, 本山, 山本, 油井, 吉田 (12名)

(代理出席委員) 大野 (坂下代理) (1名)

(欠席委員) 出光, 苅込, 馬原 (3名)

(常時参加者) 増田 (1名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

F2SC6-1 第5回 放射性廃棄物管理分科会議事録 (案)

F2SC6-2 標準委員会の活動状況

F2SC6-3 免責条項/著作権/標準の利用にあたって

F2SC6-4-1 分配係数測定の標準化のニーズ

F2SC6-4-2 分配係数の定義付けと測定法標準化の意義

F2SC6-4-3 国内における分配係数に関する現状

F2SC6-4-4 分配係数測定に関わる影響因子の整理表 (案)

F2SC6-4-5 分配係数への影響因子の把握のための検討

F2SC6-4-6 分配係数の各種測定法と問題点

F2SC6-4-7 分配係数の標準的測定方法に関する検討

F2SC6-4-8 データの処理方法, 誤差等に関する検討

F2SC6-5 日本原子力学会標準制定スケジュール (案) (原子燃料サイクル専門部会関係)

参考資料

F2SC6-参考1 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 出席者の確認の結果, 16名の委員中12名の委員と1名の代理委員の出席があり, 決議に必要な委員数(11名以上)を満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録の確認を行い, 承認された。(F2SC6-1)

(3) 調査・検討状況の審議

担当委員より各項目の内容について説明があり以下の議論が行われた。

a. 分配係数測定の標準化のニーズについて (F2SC6-4-1)

b. 国内における分配係数に関する現状について (F2SC6-4-3)

・ 資料F2SC6-4-1, F2SC6-4-2との重複部分を整理する。

・ 2章で各種測定方法からバッチ法に絞る方向性を出し, 3章の順序を変更する構成とする。

・ OECD/NEA等の状況を国内外の状況に追記する。

c. 分配係数の定義と適用範囲について (F2SC6-4-2)

・ 資料F2SC6-4-3の測定法の記述を参考に修正を行う。

d. 分配係数への影響因子の把握のための検討について (F2SC6-4-4,5)

・ 影響因子のうち注意すべきところなど, 軽重が分かるとより使いやすい。

・ 資料F2SC6-4-4の表に記載されている項目を4章の項目とする。なお, 試料採取は項目として含めない。

e. 分配係数の各種測定方法と問題点について (F2SC6-4-6)

・ 資料F2SC6-4-6については, 4章の前半部分とまとめに取り込むこととする。

f. 分配係数の標準的な測定条件に関する検討について (F2SC6-4-7)

・ 質量は乾燥重量とする。

・ 推奨事項と例示を分けるべきである。条件などは一覧表を用いる。

・ 平衡の判断について記載する。

(4) 今後の予定

4/20（金）までに以下に示す報告書本文目次に従い、各章毎に纏め、担当委員から幹事へ資料を送付し、連休前までに幹事から各委員へ報告書（案）を送付する。更に、各委員は、5/10（木）までに報告書（案）へのコメントを幹事に送り、6月上旬に次回分科会を開催することとなった。

また、次回の第6回原子燃料サイクル専門部会（7月開催予定）へ標準原案を上程することを目標に進めることが確認された。

・報告書本文目次（案）（主担当委員）

まえがき（必要な場合：主査，学会）

1. はじめに（主査，佐々木委員）
2. 分配係数の定義と適用範囲（大江委員）
3. 分配係数を巡る最近の国内外の動向（油井委員）
4. 分配係数への影響因子の把握のための検討（本山委員）
5. 合理的且つ標準的と考えられる分配係数の測定方法（バッチ法）（武部委員）
6. データの処理方法（上田委員）
7. 総まとめ（副主査，幹事）
8. 今後の予定（幹事，副主査）
あしがき（必要な場合：幹事，学会）

以上